



大正十一年八月二十三日  
大正十一年八月二十三日

發行所  
發行所

### 對露非干涉同志會

最近、對露非干涉同志會といふ一團體が組織されて、引き續き盛んに活動してゐる。此の團體は、日本の無産階級が直接に、労働ロシア對資本主義日本の國際問題に對するその意志を表示し、且つ自らその解決方法を提示しやうとするものである。此の團體は、もとより、「民衆」を踏臺とする政治屋どもの野心と何等の共通點を有つてゐない同時に、それは所謂ゆる「露部」連中だけの協議會でもなく、又少數「左翼」仲間の孤立的運動でもない。それは何處までも労働大衆の共同を力とするものであり、その仕事は唯此の共同の力によつてのみ決せられる。此の團體は、要するに労働ロシアに對する日本資本階級の一切の政策に對する、日本無産階級の独自の批判、直接の監視、

最も公然の闘争である。そこで、對露非干涉同志會は當面の實際問題に即してその綱領を掲げ、之が實現の手段を全く大衆運動の中に求めてゐる。對露非干涉同志會は當面の形勢に鑑み次の三項の遂行實現を期す

- 一 ロシアに駐屯せる日本兵の即時無條件撤退
- 二 ロシアに對する通商貿易の即時開始
- 三 ロシアの飢饉に對する救済金品の贈與

事務所 東京芝居新橋田町十九平民法律事務所  
入會金 金 二十 錢 (申込書に添付の事)

日本の労働大衆は、國際資本主義に對する労働ロシアのあらゆる闘争に就いてまだ充分の理解がなく、無産階級の國際的協力に於てまた大いに後れてゐる。非干涉同志會は、常に大衆の現狀の地位に立脚すると共に、そ

の大衆の中に労働ロシアの眞實の利害を明白に宣明しなければならぬ。労働ロシアの國際形勢は刻々進展する。非干涉同志會は此の形勢の推移に従つて、世界の資

一流の外交手段に移らうとしてゐる。日本無産階級は隨うとして彼等の不平和的侵略に對抗しなければならぬ。此の時、非干涉同志會は日本労働大衆の威力を聯合して、その實際の對抗策を講ずべき重大な任務を帯びて我等は別項の抗議を貫徹する爲に多數同志諸君が同志會に加盟せられんことを希望する。

種蒔き社  
無産階級社  
前衛社

吾等は茲に、對露非干涉同志會の機關を希望し、全國の労働大衆に對して此の共同事業に参加せよを訴へる。萬國の無産階級と團結せよ。失ふところは鐵鎖のみ!

(種蒔き號外) 大正十一年八月二十三日印刷本發行

(定價貳錢) 東京市外、代々木三丁目、種蒔き社

### 出兵の意義

資本主義の發達と共に日本の對外政策は、深遠的、守勢的帝國主義、侵略的帝國主義へと進んで來た。それは日本帝國主義の劣弱を是認した悲痛を叫びてあり、次の戦争に對する物言ひの決意の表白であつた。「東洋平和」それはロシアの帝國主義を東洋から驅逐して、東洋の主入たんとする支那階級の野心を起し得たであつた。

めた日本の支配階級は少しも外國の土地や利權を奪ひとるのが外交の成功だと考へるやうになつた。軍閥と政黨とブルジョアとその新聞紙とはぐるになつて、血腥い鐵血外交、武斷外交を新日本の國是に擁立した。間斷なき銃剣外交によりて日本は次々に隣國の土地と利權を奪ひとり、國際的憎惡の標的となつた。遂に青島からドイツの勢力を驅逐して侵略戦争の第一歩を踏み出した。

開紙や政治屋の間に起つてきた件しぐら支配階級が血塗つてもまるで無意義の出兵をやる筈はない。そこで日本の無産階級は出兵の意義を指摘し、支配階級の野心の正體を暴露せねばならぬ。それは民衆の生命と財產血と汗とをもつて、支配階級が自己の領土的、經濟的野望を充し、ロシアの無産階級國家を打ち倒して國際資本主義の再建をはからんとするにある。これが出兵の意義だ。無産階級を犠牲にしてブルジョアジイが飢へたロシアの骨までなめやうとするのが出兵の意義だ。全國の無産階級、その同胞の生命と利益を守つて起つて吾等の良心と吾等